○○小学校第６学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和３年１２月２日（木）第５校時
授業者：○○小学校　教諭　○○　○○

授業テーマ	児童が日常と教材の場面を重ね合わせて、自分自身の考えを見つめなおし、差別やいじめを乗り越えるための道徳的価値の理解を深める授業

１　主題名　「偏見による差別やいじめを乗り越える」Ｃ―１３公正、公平、社会正義

２　教材名　「それは、ちょっとしたチャットのつぶやきから始まった･･･」
（新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

集団や社会において公正、公平にすることは、私心にとらわれず、誰にでも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるように努めることである。しかし、社会正義の実現を妨げるものに人々の差別、偏見があり、これらは、異なる立場に対して偏った見方をしたり、弱い存在があることで偏った接し方をしたりするなど人間の弱さに起因している。よりよい自己実現を図ることができる社会を実現していくためには、その人間の弱さを乗り越えて自らが、正義を愛する心を育むようにすることが不可欠である。特に高学年という段階においては、自分自身の問題であるという意識を持たせることが大切である。その上で、社会正義の実現は容易ではないことを自覚させ、身近な差別や偏見に向き合い、公平で公正な態度で行動できるようにすることが重要である。

（２）児童の実態について（子ども観）

本学級は２９名の学級である。入学からほぼ同じメンバーで学校生活を送っているため、お互いをよく知っている関係である。児童は様々な生活経験から差別や偏見がいじめなどの問題につながることや人間の心の弱さに起因していることもを理解している。一方で、いじめなどの場面に出会ったときに、ともすると傍観的な立場に立ち、問題から背を向けることも少なくない。内容項目が同じ「かたよらない心」の道徳科の授業では、うわさについて、「本当かどうか分からない情報はすぐに信じないようにする。」や「自分で判断して、周りに流されないようにする。」などの振り返りが見られたが、自分が仲間はずれの対象になりたくないという気持ちから、友達との関係を優先し、傍観者になったり、思っていることをはっきりと言うことができなかったりする児童が多い。本時の学習を通して、自分の意志を強く持ち、周囲の雰囲気や人間関係に流されないで、偏見による差別やいじめを乗り越えることができる心を育てるようにしていきたいと考える。

（３）教材および指導について（教材観及び指導観）

本教材は、「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止教材」である。うちの学校から感染者がでたらしいというチャットのつぶやきから、登校日に欠席したＡさんがコロナになったのではないか、Ａさんなら他の人にもうつっているかもしれないという内容である。Ｂさんが「ねえ、やめよう！こういうこと、よくないよ。」と発言する場面では、児童が日常生活での自分と重ねて考えるきっかけになるのではないかと考えた。児童にＢさんの「やめよう！」というつぶやきを提示し、Ｂさんの心のうちを考えられるようにしていく。このとき児童が自分自身に引き付けて考えられるよう心のものさしを活用する。次に、「わたし」がきれいになる皿をじっと見つめる姿を「わたし」の葛藤と捉えさせ、このときどんなことを考えていたのか話し合いを通して考えさせることで、誰にも心の弱さがあり、だからこそ身近な差別や偏見に向き合い、公平で公正な態度で行動が必要であることを考えさせたい。

４　本時のねらい

「偏見による差別やいじめを乗り越える」とはどのようなことか他面的・多角的に考えさせる活動を通して、だれに対しても偏見をもつことなく、公正、公平に接し、正義を実現しようとする道徳的心情を育む。

５　実際の板書

6　学習過程

	学習活動・内容 （◎中心発問、・予想される児童の反応）	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1　公正、公平について考える。 （1）「チャット」のイメージをもつ。 ・　いつでも会話できる。 ・　簡単に話せる。 ・　いつまでも終わらない。 ・　言いにくいことも伝えやすい。	5	○　事前アンケートやチャットをした経験からその便利なところや問題点を考えさせ、チャットには、気を付けなければならない面があることをおさえる。
展開	2　教材文を読み、「偏見による差別やいじめを乗り越えること」について考え、話し合う。 （1）「Bさん」の発言について考える。 ○　チャットの中で「Bさん」のようなつぶやきができますか。 ・　言わなければならないことは言う。 ・　周りの会話に合わせてしまう。 ・　自分が仲間はずれになるかも。 ・　周りを気にして、思っていても言えない。 （2）「わたし」がおさらをじっと見つめながらどんなことを考えていたのか考える。 ◎　わたしは、おさらをじっと見つめながら、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・　このチャットを知ったら「Aさん」はどんなことを思うだろうか。 ・　「Aさん」が本当にコロナにかかったかどうかなんて分からない。 ・　みんなが言っていることを信じていいのだろうか。 ・　「Bさん」のように「やめよう！」と言うべきだったのではないだろうか。 （3）「わたし」は「Aさん」にどんなことを言ったのか、その時にどんなことを考えていたのか話し合う。 ○　「Aさん」と目が合ったとき「わたし」は何と言ったと思いますか。それはどんな気持ちからですか。 ・　Aさん元気になってよかったね。 ・　コロナじゃなかったんだね。 ・　何とも言えない。	20	○　「Bさん」の発言を提示し、なぜ「Bさん」がこのようなつぶやきをしたのか考えながら範読を聞くようにさせる。 ○　チャットで「Bさん」のようなつぶやきができるか、心のものさしに表し、その理由を考えさせる。 ○　「Bさん」のつぶやきがどのような気持ちから出てきたものなのか考えさせる。 ○　「わたし」はどんなことを考えているのか、その背景には、どんな気持ちがあるのかについて話し合いを通して明らかにしていく。 ○　「わたし」のつぶやきについて問い返し、「わたし」にも弱い心があることを気づかせる。 ※　「Bさん」のつぶやきと「母」の言葉に着目し、多面的・多角的に考えを深めている。 （ワークシート、発表） ○　教師が「Aさん」役になり、児童が「わたし」役になり役割演技を行い、「わたし」の「Aさん」に対する言葉は、どんな気持ちから発せられたものなのか考えさせる。
	3　自己を見つめる。 ◎　もう一度、チャットの中で「Bさん」のようなつぶやきができるか考えてみましょう。 ・　自分の考えをはっきり言わなければならない。 ・　周りに流されるのではいけない。	10	○　「わたし」の言葉や気持ちには、「Aさん」のことを考えている反面、弱い心もあることを押さえる。 ○　再度心のものさしに表すようにし、ネームカードを動かした児童にどんな気持ちから動かしたのか理由を問うようにする。
終末	4　本時を振り返る。 ○　今日の学習を振り返り、心に残ったことや学んだこと、感じたことを書きましょう。	10	○　道徳的価値の理解を自分との関わりで深めている児童を意図的に指名し、道徳的価値についての考えを深めることができるようにする。 ※　偏見をもたず、公正、公平な態度で接することが、なぜ大切なのかについて自分事として捉え、考えようとしている。（ワークシート、発表）

7　考察

児童の心に響く指導の工夫の視点から

（１）主題や教材と自分を重ねて考えるための工夫について

○　「チャットはよいことばかりなんだね。」と問い返し、チャットの問題点に目を向け、生活場面と教材文を関連付けて考えることができた。

○　なぜＢさんが、「やめようよ。」と言ったのか考えながら動画を見るよう指示し、視点を与えて動画を見せ、自我関与させながら、教材文を読むことができた。

○　心のものさしにネームカードを貼り付けることで、立場を明確にし、自分事として考えることができた。

●　心のものさしに表した後、さらに「言えない」理由についても問うことで、自分が嫌な思いをしたくないという弱い心、自分中心の考えが焦点化され、Ａさんと自分を重ねて考えることができたのではないかと考える。

（２）道徳的価値について理解を深められるような発問の工夫について

○　机間巡視や個別の支援をすることで、子どもたちの様々な考えを引き出すことができた。また、子どもたちの考えを整理して板書することで、多面的・多角的に考える拠り所となった。

○　「わたし」が「じっとお皿を見ながらどんなことを考えているか」を問い、「それは、どんな思いから出てきたものなのか」と問い返すことで、Ｂさんの発言の意義やお母さんに言われたこと、周りに流されてしまった自分の情けなさなど多角的に考えさせ、本時の価値に迫ることができた。

●　教師から問い返したことで学級全体の児童に広げたり、ゆさぶりをかけじっくりと考えさせたりすることにつながったかが課題であった。児童のつぶやきを整理しながら板書することなど、教師が児童の考えをつないでいくことで、さらに児童の多様な考えを引き出すことができたのではないかと考える。

（３）広がり・深まりのある話し合いにするための工夫について

○　児童がペアでＡさんと「わたし」役になり役割演技を行った。「わたし」役になった児童は、チャットやその後のモヤモヤした気持ちを体感し、Ａさんにどんな言葉をかけるか悩みつつ、道徳的価値の意義に気づくきっかけとなった。

○　取り上げたペアの役割演技を全体で共有し、どういう思いから「おはよう。」という言葉が出たものなのか問い返し、「わたし」のＡさんを気遣う気持ちや周りの友達に流されてしまったことを悔やむ気持ちなど公正、公平について多面的・多角的に考え、心の奥にある思いを引き出すことができた。

●　２色のネームプレートを用意し、展開前段と後段で色分けして、心のものさしに表現することで、役割演技や話し合いを通して児童の考えがどのように変容したかを可視化することができたのではないかと考えられる。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

（１）「学習状況」について

ワークシートには「自分を見つめよう」という項目を設け、学習を通して考えたことや思ったことを記入し、学習を振り返る活動を行った。児童がワークシートに記入した内容について朱書きでコメントすることで、児童の変容や考えの深まりを認め、評価に生かすようにした。また、ワークシートを教室に掲示することで、一人一人の考えを共有し、認め合うことができるようにした。

（２）「道徳性に係る成長の様子」について

授業で使用したワークシートを持ち帰り、保護者のコメントを記入してもらった。それをもとに道徳的価値について振り返る機会を設け、事後指導の充実を図った。教師のコメントの他に保護者の考えにも触れることで、多面的・多角的な見方ができるようになるとともに、児童に自己の変容や成長の状況を実感させることができた。